

# 鳥取砂丘クラブの歩み

鳥取砂丘クラブ 代表 坂本正夫

鳥取砂丘クラブは、平成4年に日本ソフトボール協会の主催による、全日本実年ソフトボール大会（50歳以上の選手を対象）が開催されることになったため、急遽、鳥取市熟年ソフトボールリーグに所属していた、全チームを対象に参加選手を募って誕生させたのが、鳥取砂丘クラブです。

第1回全日本実年ソフトボール大会は、愛媛県の松山市で開催されました。当時は、米子市と淀江町との3チームで行われた県予選に勝利し、鳥取砂丘クラブは、晴れある全国大会への県代表となりました。

全国規模の大会への参加は、初めての経験で皆が期待と不安を抱きながらの戦いであり、記念すべき第1回の対戦相手は石川県の小松球友会でした。初めて見るウインドミル投法による剛速球投手との対戦で、0-2でシャットアウト負けでした。この大会により他県との実力の差をまざまざと見せつけられ、一層の技術力の向上を図らないと全国には通用しないことを痛感させられ、この経験により大きな収穫を得ることが出来ました。

その後、新たに制定された、シニア・ハイシニアの年齢区分による全日本大会や西日本大会、ねんりんピックなどの大会が開催され、チームのレベルを少しでも上げるべく努力を重ねてきました。県外チームとの実力の差はなかなか埋まりませんが、まずは1勝を目指して、皆でレベルアップを図っていく必要があると思っています。



また、各大会に出場することはもちろんのことですが、全国の選手との交流を図るとともに、色々な都市を観光できることも出場する楽しみでもあり、励みとなっていました。

各大会に出場して思うことは、他県にはソフトボールの競技人口や参加チームが多いこと、専用球場が多数整備されていることに驚かされます。広大な敷地の中に立派なソフトボールの専用球場が4会場以上も集積されて

いるなど、社会教育の一環として、子供から高齢者までの競技人口も多く、幅広い活動がなされており、本県との温度差を何時も感じさせられていました。

鳥取市熟年ソフトボールリーグ戦には、既存チームとの二重登録可という変則なチーム形態ではありましたが、平成18年の第23回大会から加入し、リーグ戦を盛り上げるとともに、クラブチームとして全国大会等への出場経験を活かしながら、リーグ戦のレベルアップにも貢献してきました。

鳥取砂丘クラブも創設30周年を迎えました。この間、沢山の選手が入れ替わりチームメイトとして戦い支えていただきました。高齢化が進み設立当時から現役として活躍している選手は、

2名となりましたが、今後も実年、シニア、ハイシニアへと、鳥取砂丘クラブは鳥取市熟年ソフトボール連盟を機軸として、将来に向けて引き継いでいかねばならないと思っています。

鳥取砂丘クラブは技術の向上を目指して連盟が立ち上げたクラブチームです。各チームの選手の皆さん、是非ともこの鳥取砂丘クラブに参加し、新しい血を注いでいただきたいと思います。

#### ○ 姉妹都市 姫路市との交流

鳥取市では、姉妹都市である姫路市とのスポーツ交流が盛んに行われていました。昭和59年の鳥取市熟年ソフトボール連盟の設立に併せて、熟年リーグも一役加わろうとの気運が盛り上がりました。当時、市議会で親交を深めていた足立利喜雄会長（鳥取市議会議長）が姫路市の仲地信夫市議会議長に電話を入れ、この思いを伝えたことからソフトボールの交流が始まりました。

第1回大会は、姫路工業大学グラウンドで開催された。チーム編成は、鳥取市チームは熟年ソフトボール連盟の執行部役員と各チームの理事で、姫路市チームは姫路市ソフトボール協会の審判員主体で編成され、両軍実力伯仲の好ゲームが展開されていた。試合は、隔年ごとに双方の市を訪問する形で行われ、昭和61年度の第3回大会までは、日帰りの1試合であったため十分な交流が出来ないということで、翌年の第4回大会からは一泊して盛會裡に交歓会を行った後、翌日に2試合を行うことになった。

鳥取市では、鳥取砂丘クラブのシニアチームが中心となって参加していた。毎年交流を重ねるにつれ、役員や選手間の絆が益々強く広がって交流を続けてきて良かったとの思いが深まっていった。交流10周年を迎えた頃には、姫路市ソフトボール協会の選手も50歳代から60歳代となったため、姫路市役所ソフトボール部を中心としたチームに編成替えを行うとともに、40歳代・50歳代へのチーム編成により2試合行う形になった。

ゲーム内容も本格化し力が入る熱戦が展開され、平成10年までの通算成績は、11勝11敗2分けと仲良く引分という結果でした。この様な中、姫路市ソフトボール協会の事情により長年続けてきた親善交流試合も平成12年の鳥取市での懇親会、千代河原での交歓試合を最後に残念ながら中止することになった。

その後、平成25年の姫路市との交流会において、長年中止されていたソフトボールがスポーツ交流事業として採用された。鳥取市チームは、若葉台球場で鳥城クラブと鳥取砂丘クラブの混合チームで姫路市の代表チームと対戦した。姫路市のチームの中には当初の交流戦で対戦していたメンバーの顔があり、懐かしく言葉をかけあうシーンも見られた。

スポーツ交流は、多数のメニューの中から開催種目が毎回選出されるため、毎年という訳にはならなかったが、平成27年には鳥城クラブが、平成29年には鳥取砂丘クラブが単独チームとして姫路市の代表チームと対戦した。令和2年以降は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、交流事業自体が中止されている。



#### ○ 近県シニア交流ソフトボール大会への参加

ソフトボールを通じて親睦と交流を深めようと「ソフトおんせん」が毎年開催している、近県シニア交流ソフトボール大会に砂丘クラブは平成27年の第17回大会から参加している。

中途からの参戦でしたが、隣の鳥取県からの参加ということで大変な歓迎を受けました。

この大会には、京都府、大阪府、地元兵庫県などから8~10チームが新温泉町湯の健康グラウンドに集い、熱戦を繰り広げている。令和2年、3年は、新型コロナウイルスの影響で中止となったが、はつらつプレーと親睦、試合が終わった後の温泉の堪能と、参加チームの皆が楽しみにしている大会でもあります。